

わたしは東方で、その方の星を見たので、拝みに来たのです。
マタイ2章2節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中田 輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869
FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp



12月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ① 一般の意向：創造主の計画による人間の尊厳
- ② 布教の意向：神の探求と主との出会い
- ③ 日本教会の意向：キリストの平和と光を

今月から「2006・ザビエル年」

大司教 教区の宣教年間を設定

高見大司教は、2006年4月、聖フランシスコ・ザビエルの生誕500年を迎えることから、司教評議会および教区顧問会10月31日には、この節目の時を、「日本教会の歴史を振り返りつつ、現代社会への宣教を考え、熱意を高め合う契機にしたい」という趣旨のもとに「2006・ザビエル年」を設定することとした。

本教区にとっては「聖体の年」に続く特別な年ということになるが、単にザビエル自身を顕彰するだけではなく、ザビエルに連なっている現在実践していることをより意識して推進し、いわば宣教年間としようというのが主な趣旨である。具体的には

- ① 平戸を中心としたザビエル祭をより発展させた形での取り組み
- ② 188殉教者列福運動推進
- ③ 中村長八神父列福運動推進
- ④ 小共同体づくり推進
- ⑤ 教会巡礼への積極的な対応
- ⑥ 故ヨハネ・パウロ2世来崎25周年記念

なお、期間は2005年12月3日(ザビエルの祝日)から1年間。趣旨の詳細については2006年大司教年頭教書で発表される予定である。

本教区にとつては「聖体の年」に続く特別な年ということになるが、単にザビエル自身を顕彰するだけではなく、ザビエルに連なっている現在実践していることをより意識して推進し、いわば宣教年間としようというのが主な趣旨である。具体的には

【豆知識】フランシスコ・ザビエル

日本に初めてイエスの教えを伝えた宣教師。1506年4月7日、5人兄弟の末っ子としてスペインのナバラ王国、ザビエル城で生まれた。パリ大学在学中にイグナチオ・ロヨラと出会い、思いを同じくする同士7人で「イエズス会」の創立に参加した。

アジアでの宣教に熱心だったポルトガル国王の要請に応えるために2人のイエズス会員がインドに派遣されることになったが、そのうちの一人が病気になる。代わりにザビエルが選ばれ35歳でインドでの宣教に従事した。アジア各地で宣教して回ったことから「東洋の使徒」と呼ばれるようになった。

マラッカの教会では日本人やジロウと出会い、ヤジロウを通して伝わってくる日本人の礼儀正しさ、学ぶことへの熱心さに感心させられ、日本での宣教を決意する。1549年8月15日鹿児島に上陸したのを皮切りに平戸、山口、大分で宣教した。

日本を離れるといったんインドに戻り、中国での宣教を目指したが1552年、中国の上川島で46歳の若さで死去した。ザビエルのまいた福音の種は、長崎、京都や大阪に広がりを見せた。(カトリック長崎大司教区発行「まるちれす」——子どものための教会史・長崎——を参考にしました)



平戸におけるザビエル(結城アサキ著「日本二十六聖人記念館の聖フランシスコ・ザビエル」より)

下村徹師 本教区に入籍

高見大司教は、2005年11月1日付で、元鹿児島教区下村徹師の長崎大司教区入籍を承認した。同師の長崎教区への入籍は、本人の希望による。

全国広報担当者会議 「教会の活動と著作権」

10月17日から19日までの3日間、日本カトリック会館(中央協議会)において各教区の広報担当者(広報)が集まり、「広報活動と著作権」の問題について集中的に研修を受けた。教区の広報でありながら、引用や写真の掲載にまつ著作権に十分留意してこなかった現実をあらためて認識した。個々の記事・写真は独創的な物、「創造物」であり、「人間の尊厳と密



広報担当者会議の様子

接に関わっていることが講師の神谷(かみや)信行弁護士から強調された。また、各教区間の協力体制、また中央協議会と各教区間の協力体制についても活発な意見が出された。

るもので、糸永真一鹿児島教区司教の移籍承認を受けて認められた。下村徹師は、1935年生まれ。桐教会出身。62年3月19日長崎教区司教として大浦天主堂で山口愛次郎大司教によって叙階される。紐差教会と稲佐

教会の助任、貝津教会主任を務めた後、69年4月糸永司教の要請で鹿児島教区に移籍。小教区、学校、幼稚園などで34年間務め、2003年9月より転地療養のため長崎市に来ていた。

れた。全国で使用する可能性のある写真の許諾を一括して取得してもらいたいとか、各教区で出されている広報誌やホームページの記事について相互に自由に利用させてもらいたいなど、一つひとつの意見には切実な思いが込められたものがあった。著作権については教区の広報担当者だけでなく、小教区の広報誌担当者にも、十分注意を払っていただきたい。教区から派遣された久志師、下村師の両司教は、祝いの席で、目の前の先輩から「明魂」という言葉

「ほしかな」

たいへん意味深い言葉を年賀状で受け取ったことがある。「どこにいても神父、どこに行っても神父」。あとで考えると、先輩司教が転勤する胸中をつづった言葉だったのだらうが、読み方によっては違う取り方も考えられる▼年賀状を受け取った当時、小教区の主任司教として張り切っている時期を過ぎて、やや気のゆるみが生じていた時期だった。本人の状態がそうであれば、先の言葉は自分に宛てての言葉に聞こえてくる。差出人はそうは思っていないけれども、予想外の効果や影響を相手に及ぼすことがあるものだ▼ついこの前も、司祭生活ダイヤモンドのお祝いの席で、目の前の先輩から「明魂」という言葉

主の降誕を準備する待降節

典礼暦はすでに待降節。実践的な準備を通して、喜びのクリスマスを迎えよう。

- ① 犠牲・献金を通して、手作りの献金箱に少しずつ貯めて、幼子イエスと同じく暖かい家でクリスマスを迎えることのできない人々にさげよう。
- ② 病人の訪問。教会でクリスマスを迎えることのできない方々に、あなたにも幼子イエスはおいでになりましたと伝えに行こう。
- ③ 救い主の誕生を知らない人。クリスマス・イブのミサに身近な人を招き、毎年の招待すれば、いつか幼子イエスに導かれるでしょう。

聖体の年 教区主催閉年のミサ

10月30日、午後2時より浦上教会で聖体の年の教区主催閉年のミサが行われた。ミサの始めに教皇ヨハネ・パウロ2世の使徒的書簡「主よ、一緒に



にお泊まりください」の一節が朗読され、続けて各地区での取り組みを紹介され、シンボル化した形で祭壇上に地区ごとに奉納された。



高見大司教は説教の中で、「聖体は神が人間と共にいてくださる最高の姿」であることを強調され、「これからは聖体から出発して聖体によっていくリズムを生きていくことにしましょう」と呼びかけた。聖体に養われての歩みはこれからも深まっていく。

佐世保地区 聖体年を、祈りを

佐世保地区では聖体の特別な年が閉幕するにあたり、「教会生活の中心にある聖体を見つめ、キリストから再出発する」ことを願い、

また「聖体年を、祈りを実践し、キリスト教的生活の質を高め、新しい福音宣教を発展させる司牧的計画の一環として示さ



れた。前教皇の呼び掛けに応え、海上での聖体行列が行われた。



10月30日(日) 浅子教会が音頭を取り、海を主生活の場とする地区内の5つの教会(神崎、浅子、黒島、相浦、大崎)から、それぞれ4隻ずつ船が出され、ご聖体に乗せた船を中心に、十字の形で編隊を組み、大崎教会から浅子教会までご聖

みことば友の会主催 大分巡

10月22・23日にかけて「大分巡礼」が行われ、34人が参加した。1日目は大友宗麟の記念公園 懐懐かきだき」のキリシタン墓碑、磨涯(まがひ)クルス、キリシタン洞窟礼拝所跡、葛木(かつらぎ)殉教公



朗読奉仕者講習会 全3回

日時：①2006年1月22日(日) 09:30~17:00 (11:30~主日のミサ)
②2006年2月19日(日) 13:30~17:00
③2006年3月19日(日) 13:30~17:00 (16:20~主日のミサ)
会場：さくらの里聖家族教会(駐車場あり) 長崎市さくらの里3丁目1700-1
参加費：1,500円(全3回)
申込・問合せ：教区典礼委員会研修会事務局 (TEL)095-844-1096 (FAX)095-840-0750 長崎カトリック神学院内
※1月15日(日) 締切。定員60人、先着順。

原良治大分教区司教が「現在、列福を祈っている188人は、2、3年のうちには列福されるでしょう」と述べ、参加者一同から大きな拍手が起こり、間近に迫った列福実現の希望と喜びに包まれた。

赤城墓地 長崎教区聖職者追悼ミサ

11月8日 カトリックの典礼暦で「死者の月」にちなんで、赤城にある「聖職者墓地」に長崎地区の司祭団が集まり、高見大司教主司式のもと長崎教区で奉仕した聖職者のために追悼ミサをささげた。説教は古巣馨神父(島原教会主任)が担当した。心に響いた追悼ミサ説教をここに掲載する。

「ラザロ、出てきなさい」

こうして赤城の墓を参り、長崎の教会のためにその生涯をささげられた司教さまがたや多くの神父さまがたの名前が刻まれた碑(いしぶみ)の前に立つと、2つのことを思います。1つは墓を訪れるという意味と、もう1つはラザロの蘇(よみがえ)りのことです。

【マルチレスのころへ行こう】

1997年2月5日、西坂の丘で26人が殉教したのち、長崎はじめ日本の教会では、その殉教の命日が近づくと「マルチレス(殉教者、証人)のころへ行こう」という合言葉がありました。そこには墓はありませんでしたが、なぜか命日が近づくにつれて信者たちの足は西坂に向かったのです。

「マルチレスのころへ行こう」「キリストと、教会の証人たちのころへ行こう」西坂へ行くのは死者への弔いのためではなく、感謝と自らの信仰の確認のためでした。やがて、本格的な殉教時代に入ると、各地にマルチレスが誕生し、そこが地元の信者たちの感謝と信仰を確認する場所となりました。

【アド・リミナ】

墓を参る習慣は、もともと古くからありました。今から1000年くらい前から、司教さまがたは定期的にローマへ巡礼しなければなりません。その目的は1つ、墓参りでした。はるばる巡礼してペトロとパウロの墓を訪ねるためでした。この習慣は、今「アド・リミナ」(Visitatio ad limina apostolorum 使徒たちの敷居への訪問)と呼ばれて、5年に1度世界中の司教さまがたはペトロとパウロの墓を訪ね、そして教皇さまに面会し、自分にゆだねられた教区のことを報告するように定められています。使徒たちの墓を訪ね、ペトロの後継者(教皇)とともに、伝えられてきた教えと信仰の絆を確認するのです。



【赤城へ行こう】

明治28年(1895年)7月25日、鹿児島県の甕(こしき)島沖で山口欽爾(きんや)神父さまと田川佐吉神父さまが遭難し亡くなりました。司祭になってわずか1年半の短い生涯でした。この2人の殉難墓碑がここに建てられたのが、この赤城の聖職者墓地の始まりです。それ以来、140年前の信徒発見の不思議な出来事を通して復活した長崎の小さな教会を大切に守り、育むために生涯をささげた司教さまや神父さまがたが赤城の墓地に葬られるようになりました。クレーン司教、コンパス司教、早坂司教、山口大司教、里脇枢機卿、島本大司教、そして、多くの司祭たち「赤城に行こう」、この言葉は私たち長崎の信者にとって、キリシタン時代の「マルチレスのころへ行こう」という合言葉や「ローマに行こう」という司教さまがたのアド・リミナと同じ響き、同じ内容を持つている言葉です。ここにきて感謝し、今のありさまを素直に報告し、伝えられてきた信仰を先人たちの前で確認し、自らも、教会も当たり前の姿に戻れるようにと祈るのです。

【赤城で報告すべきこと】

正直に報告しなければならぬことがあります。長崎の教会は萎えています。司祭や修道者の召出しは先細りになり、昨年全国で5000人近くいた大の受洗者の中で、長崎教区は117人でした。先人たちが何とかやり繰りし工面してきた教区の経済は破綻(はたん)しかけています。司祭同士の兄弟としての絆の希薄さ、信徒と司祭の信頼関係の危うさも見え隠れしています。

そして、なによりも教会を魂のよりどころ、憩いと癒やしの場として生きてきた多くの信者たちが、今少しづつ教会から遠のいていくことのほうが大きな悲しみです。だれが来てもどうせ同じ。何をしてもさして変わらない。期待せず、希望せず、冷めた白けた世の中の風潮が、そのまま教会の中にも漂っているかのようです。教会も「時代の子」です。もう、教会の役割は終わったのでしょうか。キリストの福音は、今の社会にとって救いにはならないのでしょうか。信仰はもう何の役にも立たないのでしょうか。つい悲観的な錯覚に陥ってしまいたいようなありさまで。いつの頃からか、先人たちが命懸けで伝えてきた信仰と、その生きざまを上手に受け継ぎ、伝えられなくなってしまうのかもしれない。しかし、長崎の教会はどんなに希望が見えにくいときにも「悲しみの歌」も「嘆きの歌」も伝えてきませんでした。伝えてきたのは「希望の歌」「復活の歌」でした。



【ラザロ、出てきなさい】

「ラザロをどこに葬ったのか」「主よ、もう臭います。4日もたっていますから」「ラザロ、出てきなさい」すると、死んでいた人が布で巻かれたまま出てきた(ヨハネ11:28-44参照)。長崎の教会は、このみことばを何度も生きてきた教会です。4日どころではありません。この教会は250年間墓の中に居ました。しかし、呼び出されたとき大勢の人たちが神を賛美しながら出てきたのです。かつて、山や谷を越えて解放の知らせを伝えるために走ってきた人の泥まみれの足を「福音を伝える人の足は美しい」(イザヤ52:7)と聖書は語りました。あの時、大浦から浦上へと復活を告げに走った信者たちの足も同じ足でした。そして、その後長崎の地を駆け巡った司教や司祭たちのほこりにまみれた足も、同じ復活の福音を伝える足でした。「走っても弱ることなく、歩いても疲れな」(イザヤ40:31)足でした。何度もつくりだしたポロを着て、粗食に甘んじ、それでも顔はニコニコして福音を伝えてまわる司祭の姿の中に、信者たちも、そして社会の多くの人たちがイエスの福音を伝え聞いたのです。これが復活の教会の記憶です。キリストは貧しさの中に宿られました。だから、今も貧しさの中でしか働かないのかもしれない。この赤城の先人たちの墓の前で、もう一度、長崎の信仰を確認しましょう。ここで、もう一度、司教や司祭たちの絆とその在り方を思い起こしましょう。そして、今また貧しさの中で復活の福音を告げる司祭に、主の復活を生きたる長崎の教会に変えてくださるよう祈りましょう。このことを、今年の赤城の墓参りにします。

聖体の年合同ミサ 神ノ島・馬込教会

10月23日、海をはさんで向き合う伊王島と神ノ島の信者が、「聖体の年」の締めくくりとして合同ミサを馬込教会で行い、祈りをささげた。

これは神ノ島教会信徒の提案により実現したもの。同教会の主任川原義和神父、子供たちを連れ家族や友人同士など約

ふどう園

▼クリスマスチャリティコンサート 12月13日(火)18時 アルカスS A S E B O 問合先・浅子教会

TEL 0956(8)2583

▼クリスマスコンサート 12月17日(土)16時 城山教会 出演・松本裕子(メゾソプラノ)、斉藤幸一(テノール)、宮坂純子(伴奏) 図書購入のためのチャリティーコンサート 問合先・聖マリア学院事務局

TEL 095(844)1549

▼写真展「日本の子ども60年」①12月17日(土)1月9日(月) 東京都写真美術館 ②1月17日(火)29日(日) 名古屋市ノリタケの森ギャラリー ③2月7日(火)12日(日) 京都市美術館別館 ④2月16日(木)3月19日(日) 横浜日本新聞博物館

日本

香典返し

お礼とご報告

長崎カトリック神学院

●崎谷正子様(西町) 故ヨゼフ崎谷庄吉様 右の方から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

以上心に心をひとつにして助け合い、信仰生活を送っていきましよう」とあいさつ。その後、川原中田輝次(馬込主任)両神父司式による合同ミサがささげられた。中田神父は聖堂いっぱい参列者に、「お互いの教会で主の平和とあいさつを交わし合う喜びを与えてくださった神ノ島教会の主



任神父さまと信徒の皆さんに感謝したい」とこの日の喜びを表現した。中には50年ぶりの再会を果たした者も。神ノ島からの参加者は島内をめぐって過ごし、笑顔のうちに伊王島をあとにした。帰りの船の中では、皆で「しあわせなカタマリ」が歌われ、恵みと出会いの一日を終えた。

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

福江市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552 24時間営業

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3 TEL(095)(代)847-7151 844-1420

24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00

貨物保険有り

- ・一般引越
- ・小荷物
- ・遠距離
- ・荒ゴミ捨て
- ・学生引越
- ・ピアノ運搬

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己

本社 〒857-1166 佐世保市本風町1468番地 TEL (0956) 31-8268

総合不動産業

土地・建物・アパート ◎仲介 マンション・店舗・貸家 ◎管理

県免(5)第2319号

全日本不動産協会会員

土地と建物 総合情報管理

高橋産業

代表 高橋 幸治

長崎市大浜町1597-29 ☎849-4645

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口美義

〒858-0926 佐世保市大湊町586 TEL(0956)47-4380

豊かな緑と眼下に広がる琴の海

社団法人 西部長崎共同墓地公園

事務局 ミカエル 大田 力

西彼杵郡時津町子々川郷172番地 TEL FAX 095-884-1817



第20回世界青年の日 2005年 ワールドユースデー(WYD)ケルン大会

「わたしたちはイエスを拝みに来たのです」③

8月19日、本大会も後半に入る。大会の頂点ともいえる教皇ミサの前に、日本巡礼団は高松教区・溝部修司教によるカテキーシスをうけ、ゆるしの秘跡、黙想の時間をもうけて静かな一日を過ごした。これまでの数々の出会い、集団生活や分かち合いの中での体験を振り返り、「自分」と向き合った。多くの仲間とともに歩む巡礼の旅は、教皇ミサ会場のマリエンフェルトへと続く。



教皇の到着を待つ青年たち

出発

20日朝、大阪教区・松浦信郎司教司式によって出発式ミサがささげられ、日本巡礼団は決意を新たに、出発の喜びと感謝のうちにデュッセルドルフをあとにした。

広大なマリエンフェルトでの夕の祈り

教皇ミサが開催される、西部ケルン近郊の鉱山跡「マリエンフェルト」は広大な敷地。たどり着くまでの道は世界各国の旗で彩られ、リュック・寝袋を背負い、ケースを転がし、楽器をならし、歌いながら歩く巡礼者でいっぱいだった。到着後、夕の祈りが始まるま



では食事をしたり、歌や踊りを楽しんだり、祈ったり、と様々に過ごした。日が暮れると急激に冷え込み、夜露のため荷物は水をかけたように濡れた。遠くの小高い丘に見

せて100万人以上(ミサには約800人の司教と1万人の司祭が参加)といわれる。参加者は皆同じ信仰を分かち合い、神の代理者である教皇のことばに耳を傾けた。教皇は説教の中で、キリストを見いだした人はすべて、他の人をキリストへと導かなければならない、喜びを自分だけにとどめるのではなく伝えるべきと説き、「キリストのように考え、生きるなら、私たちの目は開かれます。私たちは、もはや自分のことだけ考えて

長崎の青年たちの感想③

★WYDに今年も世界中から多くの若者が集まりました。神の愛を証する使命を持つ者たちが、一つの信仰のために寄り合い、共に祈ろうとするこの大会に参加できたことを心からうれしく思いました。(曾根教会・大木知恵子)

★今回初めてWYDに参加し、大会では多くの体験ができました。世界の青年との出会いや祈りの中での一致。これらの体験を生かして、青年が意欲的に活動していきたいと思ひます。(長崎コレジオ3年・藤畑広仁)

★WYDに参加して私にとって一番の恵みは「出会い」でした。世界中の何百万人もの若者が集い、神さまをたたえる姿には心を打たれました。世界中に多くの仲間がいるということが力強く感じられたと同時に、これからの信仰生活に生かしたいです。(浦上教会・岩永希春)

★教皇さまのごミサだけでなく、多くの信仰の仲間たちと心を分かち合えたことが心の大きな宝物になりました。ご聖体を体験する巡礼だったような気がします。参加できて本当に良かったです。(本原教会・中野健一郎)

ミサで祈る青年たち



生きるのをやめます。そして、どこで誰かが自分を必要としているかがわかるのである。(カトリック中央協議会司教協議会秘書室研究企画と語り、キリストとともに歩み続けるよう励まされた。)

画面を通して見ることで、祭壇から離れていても距離を感じることなく心をひとつに参加することができた。閉会式で教皇は、次の回、WYD世界大会が2008年オーストラリアのシドニーで行われることを発表、ひととき大きな歓声がわき起こった。

大会後、振り返りを過ごす場所ノイスへ

大会が終了し、大勢の人々がマリエンフェルトの会場から去っていった。途中の道は、またも大混雑。日本巡礼団もようやく徒歩とバス、列車を利用し、この日からの滞在先、地ノイスへ移動した。ここで青年たちを、家族のように温かく迎えてくれたのは、コルネリウス教会の共同体。ノイスは振り返りにふさわしい、落ち着いた静かな町だった。

新平戸市長に 白浜 信氏



4市町村の合併に伴う新平戸市長選は11月6日投票され、旧平戸市長の白浜信氏(66)が旧平戸市議会議長の西川克己氏(57)、旧田平町長・山崎雄士氏(57)を破り、初当選した。

白浜氏は旧平戸市長を3期9年務める。県職員課長、秘書課長、県北振興局長などを経て旧平戸市長に就任。新平戸市長選は、白浜氏、西川氏ともにカトリック信徒、有権者の関心を集めた。

「学者たちはひれ伏して幼子を探み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた(マタイ2章11節)」

金を工面したと思ひます。ジムは一番大切にしていた時計を、デラのために売ってしまひました。デラも一番大切にしていた自分の髪の毛を、

みことばにふれて

尾高修一神父



2000年前に、ベツレヘムという町でお生まれになりました。赤ちゃんが生まれるとみんなうれしくなります。まして救い主であるイエスさまの

計もありませぬ。しかし、この2人は自分の一番大切なものを犠牲にしてまで、相手の幸せや喜びを願っていました。イエスさまは今から約

WYD報告会 純心大学



10月29日、ワールドユースデーケルン大会の報告会が、参加した学生によって純心大学(長崎市三ツ山町)で行われた。5人の学生は、ドイツでの体験や交流

上五島地区ミニバレー大会
11月6日(日)上五島地区信徒使徒職評議会主催のミニバレーボール大会が上郷体育館で開催された。ソフトボール大会の予定が、雨のため急きょ種目と場所を変更して行われ、15チーム250人の関係者と応援者を含む約400人が参加した。

★世界中から集めた深い知恵の話
マールゲット・シルフ編
伝説・寓話(ぐうわ)・物語。それは時空を越え今を生きる人々に贈られるまことの知恵と光!興味深い、短い話の中に、今を生きる知恵が宿っている。1890円。女子パウロ会



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ハウロ 西村 勇夫
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

(医) 外尾内科医院

院長 ベトロ 外尾 明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4
TEL 0956-33-5557

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 瞳子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436

マイホームの美容と健康に!

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協合理事
長崎県見物営繕工業協同組合理事
代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

平成18年度 生徒募集



■中学入試
一次入試1月21日(土)
二次入試2月19日(日)

■高校入試
特進クラス入試1月18日(水)
一般一次入試 2月 6日(月)
一般二次入試 3月18日(土)

長崎南山

中学校 高等学校
TEL 095-844-1572
URL http://www.n-nanzan.ed.jp

なが さき せき ちょう 長崎石彫

石碑
墓工事
墓分譲

ヨゼフ 岩永 博明
〒852-8013 長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎(095)862-2469